

新年ご挨拶

エルサレム歌祭への大いなる一歩に

エスペラント普及会名誉会長
出口 紅

Feliĉan Novjaron!

明けましておめでとうございます。
新玉の年を迎え、会員の皆様には
益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

1923年、出口王仁三郎聖師によって
エスペラントが大本に導入され、現在の
エスペラント普及会の前身であります
「エスペラント研究会」が設立され
ましてから、本年で84年を迎えます。

かえりみますと、わが国ではじめての世界エスペラント大会(第50回)が東京で開催されましたのは、本会設立の年から42年目の1965年、そしてさらに42年が過ぎ、本年2007年は、わが国で二度目の世界エスペラント大会(第92回)が横浜で開催されます。

1965年の第50回世界エスペラント大会のおりには、海外の27カ国から大勢のお客さまを亀岡・綾部の両聖地にお招きし、「大本国際友好祭」が開催されました。その当時小学校1～2年だった私も大本口丹波少年隊員として各国の国旗掲揚のお手伝いをさせていただきました。天恩郷が突如異国と化し国境や人種の垣根をこえ人々が交流するエスペラントの世界を目の当たりにし、一種カルチャーショックのようなものを感じたことを憶えています。

そして、本年も横浜での世界エスペラント大会ののち、各国エスペランティストの皆様を綾部・亀岡の両聖地にお迎えして、8月12日から14日までの三日間、国際友好行事“Bonvenon al Oomoto en 2007!”を開催させていただくこととなっております。能、茶道、書道、武道など日本の伝統文化の紹介や体験をしていただく催しなど、海外のお客さまには、聖地の



神気に触れ日本の美しい文化と風情を十分楽しんでいただける充実したプログラムを準備いたしているようでございます。

とりわけ、14日の最終日には、綾部の長生殿におきまして「大本歌祭」を開催させていただき、海外の皆さまとともに世の平安を祈らせていただきたいと存じております。「大本歌祭」は、古代さながらの神人和合のみまつりで、和歌を献ずることによって主神のみ心を和め、同時に人々の心を和め、社会を和め、世を神さまの理想とされる平和の世界へ導く大切な神事でございます。国家間・宗教間の紛争は激しさを増し、自然界では生物絶滅の危機さえ叫ばれている今日、国際的「歌祭」開催の意義を私は強く感じています。

2004年（平成16年）12月、ブラジルの首都ブラジリアに「大本インテルナツィーア」が開設され、地元のエスペ란チスト・スピリティストの皆様のご協力を得て、僅か2年のあいだに目覚ましい発展を遂げています。この動きはブラジルだけにとどまらず、アジアにおいては、モンゴル、韓国、中国などとのエスペラントを媒介とする交流もますます盛んになりつつあります。

おりしも、2006年（平成18年）大本も開教120年記念事業がスタートし、海外からのお客さまをお迎えする施設やエスペラントの教典、教書もさらに充実する予定となっております。こうした中で、海外におけるエスペラント語およびエスペラント活動の果たす役割はますます大きくなっていくことでしょう。

エルサレムの地でエスペラントの歌祭が開催される日もそんなに遠い将来のことではないように思います。今夏の国際友好行事“Bonvenon al Oomoto en 2007!”がその大いなる一歩となりますことを心から念願いたしております。

平成19年正月元旦

EPA理事長挨拶

エスペラント普及会理事長
かなこぎ ときお
鹿子木旦夫

新年明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

『わが願ひ エスペラントの歌祭
はらから
人類同胞こそりて エルサレムの野
に』

このお歌は、平成16年の8月6日、亀岡天恩郷で開催された「大本歌祭」において、出口紅名誉会長が献げられた一首です。

エルサレムは、世界の三大一神教であるユダヤ教、キリスト教、イスラムの「聖地」であり、世界中からの巡礼者であふれる数千年の歴史を持つ聖都であります。しかし、今日、この聖地をめぐるイスラエルとパレスチナの対立、抗争は中東和平、ひいては世界の平和に大きな影を落としています。

このエルサレムの地で、エスペラントの歌祭をという名誉会長の願いは「ひとつの神 ひとつの世界 ひとつの共通語」に端的に表現される世界平和実現への足がかりを築く、近未来の具体的目標であると拝察されます。

歌祭は、奈良時代から平安時代にかけて日本の村々で広く行われていたもので、長い間途絶えていたものをEPAの創設

者である出口王仁三郎師が復興されました。神代の昔、スサノオの尊さまがお詠みになった日本最古の和歌「八雲神歌」を中心に献詠歌で歌垣を設け、古式豊かに潔斎の舞と朗詠で平和を祈る祭典であります。私たちもこの出口紅名誉会長の願われるエルサレムでの歌祭の実現をEPAの近未来の目標に掲げ、精一杯の努力をと念じるものです。

本年いよいよ横浜市で世界エスペラント大会が開催されます。この大会の成功に最大限の協力をするとともに、大会後の8月11日夕から14日まで“Bonvenon al Oomoto en 2007!”を開催することになりました。この綾部、亀岡を会場にする行事の成功が本年の最大の課題であります。「訪日のこの機会に大本を訪問し、もっと大本の教えに触れ、日本の伝統文化を体験したい」という海外エスペランチストの要望にこたえとともにエルサレムでの歌祭を視野に入れて、綾部長生殿でエスペラントによる歌祭を執行しようというものです。

ブラジルの首都ブラジリアでも、現地のエスペランチストの協力のもと歌祭を開催しようとの声が上がっています。長生殿でのエスペラント歌祭を成功させ、ブラジリアをステップにし、エルサレム歌祭を現実的課題として引き寄せられる一年にしたいと思います。「今まで夢だったことを、明日の現実に！」を合言葉に胸ときめかせて、着実な一步を印せる一年になるよう皆様のご協力をお願いいたします。

圓佛教青年部とエスペラント交流始まる

大本青年部副部長
鬼塚義彰

圓佛教 pastrinoj の学習意欲に啓発されて

韓国の圓佛教青年部との交流、協力関係を築くための会合出席と、韓国のエスペランティストとの交流をはかる目的の下、11月21日から26日にかけて、吾郷孝志EPA事務局長と共に韓国へ出向しました。

21日早朝に亀岡を出発し、ソウルのインチョン空港に着いたのが、午後3時過ぎ。私は去年初めて、圓佛教を訪問してから早くも一年が過ぎたのかと感慨にふけりながら、空港のゲートを抜けると、少し小太りの、どことなく親近感のわく男性が笑顔で近づいてきました。

「吾郷さんですか？」。片言の日本語で話しかけてきたこの人が、圓佛教青年部が主宰する「フレンズ・オブ・ピース」の副代表ユン・ボブダル氏です。早速、彼が運転する車でソウル市内へと向かいませす。

車中で、彼に話しかけると、エスペラントはまだ習いたてとのこと。車の渋滞が続く中、1時間半かけて到着したのは、今回3日間も利用することになった、圓佛教が管理するユースホステル。

そこでは今回、四六時中お世話になったソウルエスペラント文化学院代表のイ・チュンギ先生と合流し、今後のスケジュールについて打ち合わせをすることに。吾郷氏との会話がすべてエスペラントで行われているにもかかわらず、そばにいる私には何について話しているのか見当がとれません。二人が笑い合う場面で一緒に相槌を打ち、「こんな調子で残り6日間、本当に大丈夫だろうか」と不安にかられながらも、必死で笑顔を保っていました。

その後、イー先生が教えておられる大学生ら十人ちかくを交えての、にぎやかな夕食懇親会を催していただき、エスペラントの雰



気に少しづつなじんでいきました。

翌朝、圓佛教の聖地・イクサンへ韓国の新幹線“ KTX ”に乗り、約 2 時間かけて移動。イクサン駅で出迎えてくださったのが pastrino の Sveka さん(エスペラント名で suno vekas の意とか)。彼女は同教国際部員で圓光大学(圓佛教が経営)の教授でもあり、去年の圓佛教本部訪問時にも、大変お世話になった方でした。

圓佛教本部正門前では、思いがけなくも圓光大学総長(同大学にエスペラント学科を創設された方)とばったりお会いし、ご挨拶ができました。また、同教新国際部長のご案内でイー・スン・テク新圓佛教教政院長(大本の総長に当たられる方)と面会でき、大本の紹介とこの度のエスペラントを通した両青年部の交流についてお話ししました。

その後、Sveka さんが聖地内をご紹介くださり、圓佛教の開教に至るまでの歴史を示す石版や礼拝場を拝観しました。また、去る 11 月 12 日に、任期満了により圓佛教の教主さまが変わられ、国内外から約 3 万人の参拝者が聖地に集ったというお話に驚きました。

次いで、聖地の真向かいにある圓光大学のエスペラント学科で教



鞭をとる、イ・チュンギ先生の授業に海外来訪者として 2 回(クラス)参加させていただくことになりました。現在、エスペラントを勉強している学生は 2 クラス合わせて約 50 人とか。

教室に入ると、若い大学生に混じって年配の pastrino の姿も見られ、後でその方からお話を伺うと、「近い将来、大本を訪ね、エスペラントで話がしたい」という強い希望を持ち、一生懸命に学んでいるとのことでした。その方のエスペラント学習に対する真摯な姿勢と、知っている単語をフルに使って会話をしようとされる熱心さに触れ、圓佛教の教主さまがエスペラントの必要性を説いておられることを受けて、信仰的な情熱をもってエスペラント学習に取り組まれていることが強く実感されました。

実際に大学生たちに聞いてみると、単位が簡単に取得しやすい

ことから、エスペラントの授業を受けている学生が大半とのことで、中には授業の時間が過ぎるのをひたすら待っているだけという学生もいるようです。悲しいことに、授業が終わって道ですれ違っても、私たちにエスペラントで話しかけてくる学生は皆無でした。

その後、夕食を済ませイクサン市内の教堂での“darmkunsido”に参加しました。そこでの礼拝は、大本のお宮に相当するcirkloに向かって、計4回の五体投地と瞑想、讃美歌を斉唱しながら、約半時間行われました。私たちは今回初めて、圓佛教の礼拝に参加させていただいたわけですが、信徒の皆さんが斉唱される讃美歌がすべてエスペラントに訳されており、しかも、先達の女性は先程の大学でのエスペラント授業に参加していたpastrinoだったことには驚かされました。

礼拝後は他の部屋に移動し、イクサンエスペラント会と圓佛教エスペラント会合同のエスペラントの夜間授業に参加し、地元のエスチストら十余人とも知り合いになることができました。

来年4月に圓佛教青年部一行が来苑

翌朝、ヨンサン市へ移動し、今回の主目的である圓佛教青年部を

訪ねました。私はかなり意気込んで行きましたが、待っていたのはこちらがエスペラントで話しかけても、困った表情を見せる青年たちでした。「おやっ」と思っていると、到着初日に、空港で出迎えてくれたユン氏が、「青年部のスタッフは、3カ月前にエスペラントを勉強し始めたばかりで、komencantojです」とのこと。



その話を聞いて、私は正直なところ内心ほっとしました。圓佛教青年部から、今回のご提案をいただいた時、同青年部員の中にはveteranojが多いから、エスペラントで交流がしたいと言ってくるのとばかり思っていたのですが、この瞬間から私の肩にのしかかっ

ていた何かが無くなったような気がしました。

その反面、エスペラントでの交流を希望する真意が何なのかとても気になりました。初会合の席上で、圓佛教の活動を紹介する映像を見た後、青年部がどのような活動をしているのか説明を受けました。その活動は機関紙発行や各種行事を開催するだけでなく、海外、特にアジアやアフリカなどの恵まれない地域や人々に資金、食料、薬品などの物資を援助する福祉活動も積極的に行うほか、朝鮮半島の平和と統一に向けた活動も行っているとのことでした。



両教団の世界平和建設に向けての思いを語り合う中で、吾郷氏が大本では宗際運動や世界連邦運動、エスペラント運動などを積極的に推進していることを紹介し、それをイ・チュンギ氏が韓国語に通訳し、そうした比較的耳新しい活動に強い関心を向けていました。

初会合では、両教団活動についての概要を紹介した程度にとどまりお開きとなり、青年部を後にした私たちは、それぞれ別行動をとることになりました。吾郷氏はイ・チュンギ氏の生徒のBrilego（エスペラント名）君と共に、次期の韓国エスペラント協会長候補にノミネートされている方と会うためインチョン市へ。私はイ・チュンギ氏と二人で、イー氏がエスペラントを教えているチョナン市の檀国大学へと向かいました。

同大学では2クラスのエスペラントの授業に出席し、学生らに質問する形で授業が進められ、韓国の人気俳優のペ・ヨンジュの話やチャングム、BOA等の質問を受けながら、大変なごやかな雰囲気の中、楽しい時間が過ぎました。中には、「大本の神さまはどんな神さまですか」と質問してくる学生もいて、私は言葉に詰りながら、あらためて「エスペラントで答えられるようにしておかなければ」と強く感じました。

圓佛教青年部とのエスペラント交流

翌24日、2回目の青年部との会合が行われ、その中で今回の提案事項について具体的な説明がありました。その話によると、これまでも他教との国際的な協力関係はありましたが、実際に言葉を交わし、交流するのはごく一部の担当者に限られており、そのうちに次第に交流の灯火が消えてしまうことも決して少なくなかったそうです。

ところが、エスペラントを用いると個人間の交流が大いに可能となり、そのpartneroとしては大本がふさわしく、将来に希望が持てる若い青年部員同士の交流が一番だと考えたこのことでした。

そして、幾つかの提案事項が示されましたが、その目的の柱としては、どういった菰であれ、お互いに協力し合える具体的な活動が希望のようでした。その結果、圓佛教青年部代表(数人)が今年4月に大本本部を訪問し、両聖地の様子や祭典に参拝する中で、次に繋がる両者の会合を持ちたいとの旨が述べられました。

今回の初会合を通して、「両教団青年部にとって最初の一步が踏み出せた」という喜びがお互いの間に共有でき、笑顔で初会合を無事終えることができたことが、大変にうれしく感じられました。

エスペラントの素晴らしさを肌で実感



25日は、アンニャン市に住むエスペランティストら十余人との交流を深めながら、26日深夜に無事帰苑しました。

この6日間を通して、多くのエスペランティストの友人を持つことができました。私にとってこのように長時間にわたり、エスペラント漬けだったことは今まで経験が無く、エスペラントで話さなければならない状況が、逆にエスペラント学習熱を高める良い機会となり、大変に有り難く思いました。

世代を超えたエスペランティストらとの連日にわたる会話、しかも冗談まで言い合って笑い合えるなど、思ってもみなかったことだけに、とても新鮮でした。国や民族や言語は異なるけれども、同じアジア人ということもあってか、和やかな雰囲気の中で親しく会話ができて、エスペラントの素晴らしさを肌で十分に実感することができました。

この喜びは、エスペラントを勉強した者同士に共有され得る、特権のようにすら強く思われました。

私もエスペラントの学習を始めたばかりで(韓国では、しばしばこれを言い訳にしていたが) それにもかかわらず、このように楽しい時間を過ごすことができました。今年は、海外から多くのエスペランティストが大本に来苑され、nur Esperanto で話す ŝanco がたくさんあります。この絶好の機会にぜひとも一人でも多くの方、特に青年層にエスペラントの学習を始めてもらいたいと心から願っています。

Mi esprimas multajn dankojn pro granda helpo de Takaĉjo kaj ŝlosilo. Dank' al ili, mi havis bonajn kaj neforgeseblajn spertojn dum la vojaĝo en Koreio. Komence, atente aŭskultinte iliajn interparolojn, mi eĉ sentis kapdolorojn. Ĉar iliaj konversacioj estis por mi kvazaŭ malfacile solveblaj enigmoj. Sed, jam antaŭ lasta tago en Koreio miaj oreloj povis kompreni iom post iom la trajton de iliaj konversacioj. Dum tiu ĉi vojaĝo ĉiutagaj Esperantaj okazintaĵoj certe restos en mia koro kiel nekalkuleblaj trezoroj. Estas feliĉe ke la trupo de ŭonblismaj junuloj esperantistaj planas viziti al la Centra Oficejo de Oomoto en venonta aprilo, ĝis tiam mi devas nepre plialtigi lingvan kapablon de Esperanto por varme bonvenigi ilin.



横浜世界大会ニュース(3)

第92回世界エスペラント大会

開催期間(2007年8月4日から11日)

会場(パシフィコ横浜、横浜みなとみらいホール、神奈川県立音楽堂)

大会テーマ(Okcidento en oriento: akcepto kaj rezisto「東洋の中の西洋:受容と反発」)

主なプログラムの予定

- | | | |
|----------------|--|------------|
| 8月4日(土) | 国際交流の夕べ(前夜祭) | |
| 8月5日(日)午前11時から | 開会式(横浜みなとみらいホール) | |
| | 午後6時半(または午後7時から)日本の夕べ
(横浜みなとみらいホール) | |
| 8月6日(月)午前 | 大会教養講座(パシフィコ横浜) | |
| | 夕方 | 食事会、ダンスの夕べ |
| 8月7日(火)午後7時 | コンサートの夕べ(神奈川県立音楽堂) | |
| 8月8日(水)終日 | 一日観光日 | |
| 8月9日(木)午後7時から | 演劇の夕べ(神奈川県立音楽堂) | |
| 8月10日(金)午後7時から | 国際芸術の夕べ | |
| 8月11日午前10時から | 閉会式(横浜みなとみらいホール) | |

お知らせ

- (1) 12月末現在の参加申込者数:横浜での第92回世界エスペラント大会の参加申込みが始まっており、11月末日の日本人参加申し込みは、300人を超えました。
- (2) 大会名誉顧問に中田宏横浜市長が就任することが決まりました。現在の予定では8月5日の開会式に出席し歓迎の挨拶をすることになっています。
- (3) 大会参加費は今年1月から下記の料金になります(2007年3月31日までに 申込の場合です。それ以後は増額になります)
- | | |
|--|---------|
| イ) UEAの個人会員 | 30,000円 |
| ロ) UEAの個人会員でない人 | 37,500円 |
| ハ) 同伴者・青年・障害者の方であって、
同時に UEAの個人会員である人 | 15,000円 |
| ニ) 同伴者・青年・障害者の方ではあるが、
UEAの個人会員ではない人 | 22,500円 |

(4) 参加申し込み先

あて先は、郵便振替口座 02290-4-94796

加入者名 第 92 回世界エスペラント大会

払込取扱票(郵便振替で送金するとき使用する用紙)には、郵便番号、住所、氏名、電話番号、上記(3)の参加費の種類を書いてください。

(5) 申し込み用紙、郵便振替用紙

申し込み用紙、郵便振替用紙は、下記(6)の日本エスペラント学会のほかに、エスペラント普及会(〒621-8686 京都府亀岡市天恩郷)(電話 0771-22-5561) / 関西エスペラント連盟(〒561-0802 豊中市曽根東町 1-11-46-204)(電話 06-6841-1928)(ファックス 06-6841-1955)(E-mail: kleg@mvf.biglobe.ne.jp) / その他、各地のエスペラント会にもあります。

(6) 問い合わせ先

お問合せは、UEA の日本代表団体である日本エスペラント学会まで

〒162-0042 東京都新宿区早稲田町 12-3 電話 : 03-3203-4581

FAX : 03-3203-4582 E-mail: Esperanto@jei.or.jp

(7) 宿泊、晩さん会、大会一日旅行などの申し込み

大会参加を申し込みますと、「大会第二報」(Dua Bulteno)という冊子が、UEA(世界エスペラント協会)から参加申込者に送付されます。宿泊、晩さん会、大会一日旅行の説明と料金が明示されていますので、それにしたがって申し込むことになります。

ですから、まずは大会参加の申し込みだけをするようになります。

「大会第二報」(Dua Bulteno)は、昨年未までに印刷が出来上がり、参加申し込みをされた方には、今年 1 月～ 2 月には送付される予定です。

(8) 宿泊を独自で申し込む

宿泊の申し込みは、ご自分で直接にホテルに申し込みをすることもできます。

(9) 一日参加券

夏期休暇などのスケジュールのつごうで、一日間だけ、二日間だけ参加する方は、一日参加券を当日、会場受付で購入し、参加することができます。一日につき約 7,000 円未満の料金です。ただし、この場合は正式参加者として登録されませんので、大会参加者名簿に氏名等は掲載されません。

第 92 回世界エスペラント大会国内準備委員(芸術担当) 碓大福

日本エスペラント大会常置委員会規約の改定
および日本エスペラント大会規約の制定について

2007 年 1 月 1 日

日本エスペラント大会常置委員会

日本エスペラント大会は、開催地を大会常置委員会で決定し、各地持ち回りで開催しています。2006 年 10 月 8 日の大会常置委員会で、標記の改定委員会規約と大会規約とを 1 年間試行することを決めました。その前提として、La Revuo Orienta 誌、La Movado 誌、Nova Vojo 誌および大会報告でエスペランチストの皆さまに内容をお知らせいたします。両規約とも現行の運営方法を文書化したものです。なお、基金についての常置委員会規定第 12 条(6)項および大会規定第 13 条は新たな規定です。

ご意見は、本周知後 2ヶ月以内に下記委員気付けで常置委員会宛にお寄せください。

委員：犬丸文雄 (JEI) 田熊健二 (KLEG) 吾郷孝志 (EPA)

日本エスペラント大会規約

前書き

日本エスペラント大会は、1906年に日本エスペラント協会の年次総会として開催されて以来、その孤態・規模を変えつつも、日本在住のエスペランチストを中心とする、国際語エスペラントに関する重要な会合として続いてきた。その伝統の上にたち、あらたなエスペラントの発展を願って、ここに日本エスペラント大会規約を定める。

第 1 章 総論

第 1 条 (名称)

本大会は「日本エスペラント大会」と称し、エスペラント名称を Japana Esperanto-Kongreso, 略称を JEK とする。

第 2 条 (定款)

本大会は、国際語エスペラントの実用・活用の場であるとともに、エスペラントを社会に知らせる場である。また、エスペラントに習熟するための場、エスペラント文化を高める場としても機能する。

第 3 条 (開催時期)

本大会は、原則として毎年 1 回開催される。開催期日は大会ごとに定める。

第 2 章 組織形態

第 4 条 (主催者)

本大会は、年ごとに主催者を定める。第5条で定める日本大会常置委員会は、大会の主催者となることができる。

第5条（日本大会常置委員会）

本大会の恒常性を確保し、年ごとの大会開催地を決定するために、日本大会常置委員会を置く。日本大会常置委員会の会則は別途定める。

第6条（大会組織委員会）

本大会の実施は、主催者が委託した大会組織委員会がこれにあたる。また大会組織委員会は自ら大会の主催者となることができる。

第7条（大会協力団体）

本大会の実施にあたり、大会組織委員会は、主催者以外の団体に協力をもとめ、該当団体が受諾した場合、これを協力団体として遇することができる。

第8条（大会の責任者）

本大会の最高責任者として、大会会長を設定することができる。大会会長の設定がない場合、大会組織委員会の長が最高責任者となる。また、別途、大会名誉会長・大会顧問を設定することができる。

第3章 大会内容

第9条（大会番組）

本大会は、おおむね次の大会番組および事業場所を組み合わせて構成される。ただし、これに限ることなく、大会ごとの創意を発揮できる。

- (1) 全体会：開会式、閉会式、あるいはこれらを総合した式典など。
- (2) 分科会：大会組織委員会が自ら組織し、あるいは実施を募集して行う。分科会は、参加者限定の非公開のものを含むことができる。
- (3) 公開番組：大会参加費を徴収しないか、別枠で徴収するもので、エスプレント講習、記念講演、演奏会など。
- (4) 階層別番組：児童向け番組、託児所、記者発表など。
- (5) 事業場所：展示会、販売所、有料/無料の休憩室など。
- (6) 懇親会、親睦会：食事を含むことができる。
- (7) 観光：大会本体の前後に行うものも含む。

第10条（付帯事業）

本大会においては、大会会計内で、行事以外の付帯事業を行うことができる。例示すれば、大会期日前の講習会、展示会などである。

第4章 大会会計

第11条（各大会の会計）

本大会の各大会の会計は、原則として独立採算として、大会組織委員会が責任を持つ。大会組織委員会は、会計責任者を置いて出納を行わせ、会計監査者を置いて出納を監査する。会計報告は大会常置委員会に提出する。

第12条（大会収益および損益）

本大会で収益が出た場合、これを大会主催団体および第13条で定める日本大会常置基金で分配する。本大会で欠損が出た場合は、原則として、前記各団体に補填す

第 92 回世界エスペラント大会速報

るが、日本大会常置委員会により該当大会の会計報告を精査の上、日本大会常置基金からの補填を受けることがある。

第 13 条（日本大会常置基金）

日本大会常置基金が、日本大会常置委員会により設置、管理される。日本大会常置基金は、日本大会常置委員会の業務遂行および大会の安定的・継続的開催のために使用される。ただし、日本大会常置委員会は法人格を持たないため、その日常的管理は財団法人日本エスペラント学会に委託されることがある。

第 5 章 その他

第 14 条（改訂）

本大会規約の改訂は、日本大会常置委員会の過半数の賛成をもって成立する。

日本エスペラント大会常置委員会規約

第 1 条（名称）

本委員会は「日本エスペラント大会常置委員会」と称し、エスペラント名称を La Konstanta Kongresa Komitato de la Japana Esperanto-Kongreso, 略称を KKK とする。

第 2 条（目的）

- (1) 本委員会は毎年開催される日本エスペラント大会（以後、「日本大会」と称する）の大会の一貫性を保つことを目的として第 1 1 条の事業を行う。
- (2) 本委員会は、次年度以後の日本大会の開催地を決定する。
- (3) 本委員会は、必要に応じ日本エスペラント大会を単独で、あるいは他の事業主体と共催で開催することができる。

第 3 条（委員会の構成）

本委員会は原則として 7 名の委員で構成する。ただし、第 5 条に定めるところにより、最大 9 名の委員で構成することができる。

第 4 条（委員の種別）

本委員会は、次の種別の委員からなる。

- (1) 大会開催地委員。原則 3 名。ただし、第 5 条により最大 5 名。
- (2) エスペラント運動経験者委員。3 名。任期 2 年。
- (3) 財団法人日本エスペラント学会（以下、J E I と称す）選出委員。1 名。任期 2 年。

第 5 条（大会開催地委員）

大会開催地委員は、ある暦年において、次に示す大会を組織する代表者各 1 名からなる。(1) 前年の大会 (2) 該当年の大会 (3) 翌年の大会 (4) 2 年後の大会開催地が決定している場合、その大会 (5) 3 年後の大会開催地が決定している場合、その大会開催地委員は、次年以後の大会開催地が決定していない場合、留任する。ただし、次年以後の大会を組織する代表者が決定した場合、すみやかに交替する。

第 6 条（エスペラント運動経験者委員）

エスペラント運動経験者委員は、比較的有力な運動組織の意見を聴取して第 9 条の手続

きで決められる。大会開催地委員の(1)～(3)と同一人とはしないが、(4)(5)と同一人であることはさしつかえない。

第7条 (役職者)

委員会は、委員の中から互選で次の役職者を選ぶことができる。

- (1) 委員長。1名
- (2) 大会常任書記(エスペラント名称 La Konstanta Kongresa Sekretario、略称 KKS)、1名
- (3) 会計委員。1名

第8条 (委員会)

- (1) 本委員会は、毎年1回、日本大会中に定例会を開く。
- (2) 本委員会は、3名以上の委員の発議により、臨時会を開く。臨時会は、郵便ないし電子メールで議決をとることができる。

第9条 (定例会)

- (1) 定例会においては、次年以後の未決定の日本大会開催地を決定する。ただし、決定ができない場合は、決定を臨時会に委ねる。
- (2) 定例会においては、次年以後の委員を選出する。

第10条 (定例会および臨時会の議事)

- (1) 定例会および臨時会においては、本委員会の目的にあった項目について協議する。
- (2) 定例会および臨時会において、重要と認められた点は、日本大会そのものの大会協議会に付託することができる。

第11条 (事業内容と役職)

第2条に定めた目的のため、本委員会は次の事業を行う。

- (1) 日本大会を通しての連絡、記録の保持。大会を安定に開催するための細則などの作成。
- (2) 日本大会常置基金の運用。詳細は第12条に記す。

なお、大会常任書記は、(1)を行う。また会計委員は(2)を行う。

第12条 (日本大会常置基金)

- (1) 本委員会は、日本大会の安定的な開催を目的として、日本大会常置基金を運営する。
- (2) 本基金は、各大会の剰余金の内、大会組織者と合意した範囲の金額を源泉とする。また、趣旨に賛同する寄付金を源泉とする。
- (3) 本委員会は、本基金から、次回以後の大会の主催者が必要とする資金について審査の上、無利子で貸与する。
- (4) 本委員会は、その目的を達する事業のために、経費を支出する。特に大会常任書記の作業については実費を支給する。
- (5) 本委員会は、日本大会が欠損を出した場合、該当の大会の経理状況を審査の上、その欠損の一部を負担する。
- (6) 本委員会は、本基金の管理を財団法人日本エスペラント学会に委託することができる。ただし、支出権限は本委員会の会計委員が持つ。

第13条 (変更)

本規約は、定例会ないし臨時会において変更することができる。ただし、委員の2/3以上の賛成を必要とする。(委員が7名の時は5名以上)。

Unu el la Majstroj mortis

Jeremi Gishron(Israelo)

Permesi al mi uzi ĉi tiun lokon por diri kelkajn vortojn pri Rabeno Arie (L e o n o) C a r m e l (elprononcita Karmel), kiu mortis jam 89 jaraĝa la 21-an de septembro lastjare. En angla lia nomo ofte aperas kiel Rabbi Aryeh Carmell -

kaj tial mi notas ankaŭ tiun varianton ĉi tie. Dum multaj jaroj la forpasinta Rabeno Carmel gvidis min en mia Toraa kaj Talmuda studado. Do mi rakontas iomete pri tio, pri li kaj pri tia tipo de studado ĝenerale.

Alvenante en Jerusalemon antaŭ kvaronjarcento mi baldaŭ komprenis ke decas iom ekkoni la religian vivmanieron en nia lando, kaj sekve mi komencis iom frekventi diversajn religiajn studejojn en la urbo. Tiuj lernejoj kiuj ja svarmas en la urbo nomiĝas "Jeŝivot" (Jeŝiva en la singularo). Tio estas vorto devenanta el la verbo por "sidi" kaj tutsimple oni do konstruis en la hebrea la vorton "sidadujo". Bonvole notu ke tio estas proksimume la sama ideo kiu reaperas en la hinduaj "upaniŝadoj" - sanskrita vorto kiu signifas preskaŭ la samon "upa-ni-sidati (antaŭ la Majstro sidadi)".

En tiuj Jeŝivot mi baldaŭ trovis ke ekzistas vere "AMASO" da sanktaj libroj por lerni. La plej uzata aŭ mi diru ĈEFA librokolekto el tiuj nomiĝas la Talmudo (Ni uzas prefere ĝian Babilonan varianton - kvankam en Palestino oni verkis plian kolekton - la tiel nomata "Jerusalema" Talmudo. Sed laŭdire ĝi estas iom malpli bona ne tiom detala) kiu vere estas verkego de 63 dikaj volumegoj nomitaj Traktatoj kun eble tri milionoj da vortoj.

Entuziasme ekstudante oni baldaŭ stumblas (ĉiu novstudanto faras tion!!!) sur alia iom pli komplika problemo ol tio pri la nura AMPLEKSO de tiu Talmudo. Jen enkonduko pri tiu alia problemo: Dum tiu tempo kiam Talmudo estis verkita (400-500 pk) oni ne plu parolis gepatre hebrean

今は亡き師

ジェレミ ギシュロン(イスラエル)

この場でラビArie(ライオンという意味) Carmel(カルメルと発音します)について触れさせていただくことをお許しいただきたいと思います。先生は今年の9月21日に89歳という年齢でご昇天になられました。英語表記ではRabbi Arjeh Carmellとしてよく知られていますので、そちらの表記もここに挙げさせていただきました。

亡くなられたラビカルメルには、トーラーとタルムードの研究で多年にわたってご指導していただきました。そこで、そのことと先生、そしてこの種の研究に関しての一般的な事柄について、少しお話しさせていただきます。25年前にエルサレムに来て間もなく、私は自国の宗教的生活様式についていくらかは知ることの方が良いと思い、エルサレムで宗教について学習できる様々な場所に通いました。エルサレムに無数にあるそのような場は、“イシェヴォット”(単数ではイエシーヴァ)”と呼ばれています。この言葉は、“座る”という動詞から派生している言葉で、ヘブライ語ではシンプルに“座る場所”という意味になります。この言葉は、ヒンズー語で言う“ウパニシャッド”とほとんど同義であることを覚えておいてください。聖なる言葉“ウパニシャッド”とは、おおよそ“ウパ・ニ・シダーティ(師の前で座り続けるということ)”を意味しています。

これらのイシェヴォットにて、私は間もなく実に豊富な学ぶべき聖典が存在していることに気づかされました。それらの聖典のうち、最も使用されている、あるいは主要なというべきかもしれない聖典は、タルムードと呼ばれています(パレスチナでさらに著述が加えられた、いわゆるエルサレム・タルムードが存在していますが、私たちは、バビロニア・タルムードの方を使っています。というのも、エルサレム・タルムードはあまり良くなく、また、それほど詳細なものではないと言われているのです)。タルムードはおそらく300万語にもものぼる、63編から成る実に大文書群なのです。

熱心に研究を開始すると間もなくつまづくこととなります(新しく研究を始めた人は、誰しもそれを経験します)。それも単なるタルムードの量の多さというよりは、もっと複雑な別の問題が存在しているのです。その問題について、ここでは触れることにしましょう。タルムードが作られた

lingvon inter la judoj (almenaŭ ne en Babilono kvankam en Israelo oni tamen eble.... kelkloke) sed aramean. Kaj tio lingvo do fariĝis la ĉeflingvo de la Talmudo, intermiksita kun la "miŝnao" kio nur ĝi estas en pura hebrea (krom la bibliaj vortoj citataj).

Jes - tiutempe mi jam, post diligenta studado, sufiĝe flue parolis kaj komprenis la hebrea. Sed kio pri la ARAMEA? Ne - nek unu vorto mi ja studis de ĝi. Kaj TIO ESTAS problemo - malmultaj homoj VERE lernas aramean, sed post kelkvara studado de la tekstoj oni al kutimiĝas al la _argono de la Talmudo kaj tial oni sufiĉe fluas en la legado kaj en la kompreno. Dumtempe, ĝis oni atingas tiun lerton, estas la RABENOJ kiuj provizas la tradukon. Povas esti traduko en la hebrea, en la jidan, aŭ en iu alian lingvon, persan kaj francan ktp. Aramea lingvo troviĝas meze inter hebrea kaj araba lingvoj. Foje ĝi estis la GRANDA kaj GRAVA lingvo apude de la greka - kaj tiel same kiel la Greka regis en la okcidento la aramea regis en la oriento. Kaj mi mem havis multe da helpo de arameaj vortoj kiam mi poste lernis la araban.

Post kelkaj jaroj de studado en hebrea jeŝivo, unu el la rabenoj klarigis ke estas gravege enprofundiĝi en la "Gemara" (la ĉefteksto de la Talmudo kio do estas en la aramea lingvo) eĉ pere de tradukado, per helpo de alia lingvo. Kaj tial mi baldaŭ troviĝis en la Jeŝivo Davar (Vorto de) Jerusalemo kiu estas ĉefe britlingva (la ĉefrabeno devenata el Manĉester, Anglujo). Mi fariĝis studento en la rondo ĉirkaŭ Rabeno Arie Carmel. Jes, li fariĝis "mia Rabeno" kiu enkondukis min en la talmudstudadon, ĉiam pli profunden. Mallaŭta, humila, pensema, kun "vastaj konoj" ankaŭ pri la legendoj (la "agada" de judismo - afero kiun mi ŝategas).

Neniam mi ĉesis miregi pri lia profundeco kaj "VERA" kompreno pri la rilato inter la Torao kaj la mondo. Tute moderna estis lia mondkoncepto. Krom kono en ĉiuj branĉoj de la juda scio, li havis sciencajn - natursciencajn - edukadon kaj estis tre aktiva por ebenigi ĉiujn "eblajn diferencojn" inter la Antikva Torao kaj la Moderna Scienco (scienco estas POR mi, kaj eble por multaj aliaj, NUR "naturscienco" - la humanismajn kaj literaturajn fakojn estas kontraŭe, kiel esperanto, homefaritaj - nuraj homaj produktoj de la pensado). La plej unuan fojon mi renkontis Rabeno Arie Carmel estis fakte

(4世紀から5世紀)頃には、ユダヤ人の間ではヘブライ語は母語としてはもう話されていませんでした(イスラエルでは、いくつかの場所で話されていたかもしれませんが、少なくともバビロニアではそうでした)。その代わりに、アラム語が使われていたのです。ですから、アラム語がタルムードを構成する主な言語となり(聖書からの引用を除いて)純粋なヘブライ語だけで書かれている“ミシュナオ”と混在しているのです。

もちろんその頃には、私はすでに熱心な学習を経て流暢にヘブライ語を話し、理解していました。しかし、アラム語についてはどうでしょう？ 答えはノーです。アラム語は一語さえ学習したことがありませんでした。問題はそこにあるのです。なぜならば、ほとんどの人がアラム語を学んだことが本当でないからです。しかし、タルムードを何年か学習するとタルムードの独特な言い回しに慣れ、流暢に読み、理解することが十分にできるようになります。そのレベルに到達するまでは、ラビたちが訳します。ヘブライ語、イディッシュ語、そして、他の言語にも訳されています。ペルシア語やフランス語版もあります。アラム語は、ちょうどヘブライ語とアラビア語の中間に位置しています。アラム語はたびたびギリシア語と連れ添って、偉大で重要な言語となりました。ギリシア語が西洋を支配していたのと同様に、アラム語はオリエントを支配していたのです。それから、私自身はアラビア語を後に学習する際、多くのアラム語の単語の助けを借りることができました。

イエシーヴォでの何年かの学習を経た頃、ラビの一人が“ゲマラ(アラム語で書かれているタルムード中の解説文)”について、翻訳を通じたり、他の言語の助けを借りてでも造詣を深めておくことが非常に重要であると語りました。

そこで間もなくして、私はイエシーヴォ・ダヴァル(エスペラントのdeに相当する)・エルサレムに行き、そこで主に英語による講義を受けることになりました(チーフラビがイギリスのマンチェスター出身だったので)。私はラビ・カルメルの下で学ぶことになりました。先生は私に、タルムードの研究を指導する“私のラビ”となり、いつも奥深い世界に導いてくださいました。小声で、謙虚で思慮深く、伝説(ユダヤ教でいう“アガーダ”、私はこの“アガーダ”が大好きなのです)についても、広範な知識を持っておられました。先生の深遠さ、そしてトラーと世界の関係についての真の理解をもたらしてくださることに、私はいつも本当に驚嘆

dum seminario en la Altlernejo "Tora kaj Scienco" kie li faris unu el la prelegoj. Tio estis jam kelkaj jaroj antaŭ ol mi denove renkontis lin en la Jeŝivon Devar Jerusalema.

Iom post iom mi komencis kompreni ankaŭ kiom-modeste li fakte estis ĉiekonata en Israelo. Ĉar unu el la plej popularaj kaj oftege citata libro de la hodiaŭ judismo pri "etiko kaj moralo" ("Mussar" en la hebrea) estas "Mikhtav Me-Elijahu" (Letero de Eliahu, tri volumoj) de rabeno Eliahu Eliezer Dessler. Sed "mia rabeno" ja estis la ĉefa disĉiplo de tiu elstara rabeno kaj li klarigis ke Dessler mem neniam verkis aŭ eldonis eĉ unu vorton. Estis li kiu kolektis la notojn, verkis la tekstojn kaj eldonis la libron - la tuta libro de Eliahu Dessler. Jen denove rabeno kaj ĉefdisĉiplo kiel ekzemple estis Rabeno Paulus kiu disvastigis la kristanismon ellaborita de Jeŝuo, kaj estis Rabeno Ĥajim Vital kiu skribis ĉiujn kabalajn librojn de Ari Ha-Kadoŝ. Kaj post la hebrea eldono aperis ankaŭ angla traduko kun la nomo "Strive for Truth" (Celu al Vero) kaj pliaj eldonoj en la franca kaj mi pensas en la rusa kaj en la hispana. Kvankam "religia libro" ĝi tamen fariĝis preskaŭ "bestseller" (amasevendito).

Rabeno Carmel multe rakontis pri tiuj unuaj jaroj en Londono, tiu antaŭ kaj post la Dua Mondmilito. Li klarigis ke li apartenis al la "unua generacio" kiu lernis la talmudon per angla lingvomedio anstataŭ la jidan (jidiŝon) kiu estis anstataŭe uzata.

Nia unua traktato estis Traktato Berakhot - kiel oni BENAS (berakha) en la hebrea, kio ankaŭ estas la unua traktato en la tuta Talmudo. Kaj mi daŭrigis dum mia studado en tiu Jeŝivo regule partopreni en la lecionoj de Rabeno Carmel. Lia maniero paroli la anglan oni vere povis ami. Riĉan, nuancan kaj altekvalitan anglan lingvon - lumjaroj for de la "fuŝamerika" kion oni vole-nevole aŭdas trumpetita senĉese de diversaj usonaj politikistoj en la "medioj". Kaj pri esperanto, kreu min aŭ ne, li havis NENIAN antaŭjuĝon.

Oni povas viziti la hejmpaĝon de DVAR JERUSALEMO por vidi videofilmon de unu el la prelegoj de Rabeno Arie Carmel. Kaj tie aperas ankaŭ liston de liaj diversaj artikoloj. < www.dvar.org.il/ >

しました。先生の世界を把握する概念は、実に現代的なものでした。ユダヤ社会について本当に細かいところまで知っておられる一方、科学(自然科学)の教育を受けておられ、古代のトーラーと現代の科学(私にとって科学とは、また恐らく他の多くの人々にとってもそうでしょうが、“自然科学”だけを意味します。エスペラントについてもそうですが、人文科学や文学は逆に人が作り出したもので、単に人間の思考の産物であると思っています)の間のギャップを埋めることに、非常に意欲的でした。私が初めて先生に出会ったのは高校生の時のことで、「トーラーと科学」というセミナーの講演者のお一人でありました。それは、私が先生とイエシーヴォ・デヴァル・エルサレムで再会する何年前のことでした。

私は徐々に、先生がいかに謙虚な方で、エルサレムのあらゆる所で知られていることも理解し始めました。というのも、今日のユダヤ教において「倫理と道徳(“ムッサール”とヘブライ語でいいます)」の分野で、最も人気がありよく引用される本の一つに、ラビエリアフ・エリエゼル・デスラーの“ミクハタヴ・メ・エリジャフ(「エリアフからの手紙」全3巻)”があります。“私のラビ”は、実はこの卓越したラビの弟子頭でした。先生は、デスラー自身は一語でさえ著述も編集もしたことはないと言いました。ノートを集め、文章を書き、エリアフ・デスラーの全著作をまとめたのは先生なのです。イエス亡き後、キリスト教を広めたパウロ、そして、アリハ・カドシュの全著作をまとめたラビハジマ・ヴィタルのように、ここでも師と弟子頭の関係が存在しているのです。ヘブライ語版が刊行された後、“Strive for Truth(真理を求めて)”というタイトルの英訳本も出版されました。さらに、フランス語版も編集されました。今後、ロシア語版とスペイン語版も出ると思います。今日、“宗教専門書”がベストセラーになることなどほとんどないにも関わらずです。

ラビカルメルは第2次世界大戦前後、ロンドンに初めて滞在した時のことについてよく語っていました。先生はアラム語の代わりに使われるようになったイディッシュ語ではなく、英語でタルムードを習った最初の世代に属しているとおっしゃっておられました。私たちが最初に学習したタルムードはベラホットの章でした。ベラホットの章はヘブライ語で、祝福に用いられます。また、全タルムード中の最初の章でもあります。私は研究期間の間、そのイエシーヴォで定期的にラビ・カルメルの授業に参加しました。受講生のみんなは、先生の英語の話し方が本当に好きでした。語彙が豊富で、機微に富んだ上質の英語。望むと望まないにも関わらず、世界で様々なアメリカの政治家が止めどなく繰り返すアメリカチックな英語とは全く違っていました。そして、エスペラントについては、私を信じてくださっているのかどうかは分かりませんが、先生は全く偏見を抱いておられませんでした。(訳：奥脇俊臣)

通信添削模範解答

講師 裕 大福

2006年11月号の問題

初級 A. 次の文をエスペラントにきなさい。

1. 50年前は、音楽愛好家はレコードをたくさん持っていた。
2. 事務所で働く人を事務員という。
3. 写真家が私の写真を撮りました。
4. ボーイはワイングラスにウイスキーを注ぎ入れました。
5. ボトルには、グラス一杯分ぐらいのワインがはいっています。

B. 次の文を日本語にきなさい。

1. Donu al mi du metrojn da silko.
2. Mi aĉetis du dekduojn da ovoj.
3. Tiu ĉi monto havas trimil tricent okdek tri metrojn da alto.
4. Sur la bordo de la maro en la urbo Venecio paŝis amaso da homoj.
5. Sur la arbo troviĝas multe da birdoj.

中級 A. 次の文を日本語に訳しなさい。

"Rano, kompreneble! Kie---", komencis Dol Rua.

"Rano, bastardo", siblis gnomaspekta knabo kun nigraj brovoj. "Mortigu ĝin!"

"Ne!", protestis Jano.

"Ne", konfirmis Dol Rua. "Lasu tion, Erĉi! La rano apartenas al Jano. Lasu ĝin trankvila".

B. 次の文をエスペラントに訳しなさい。

零の発見と並んで、チェスは世界に対するインドの貢献、という人もいる。紀元前二千年以前にさかのぼるインダス文明期の遺物にはすでに、チェス用かと思われる格子目の付いた煉瓦製の厚い方形盤が、陶製あるいは貴石製の駒とともにモヘンジョ・ダロやハラッパーなどの遺蹟に出土している。

(「みんぱく」2006年5月号より)

2006年11月号解答例

初級

A.

1. Antaŭ 50 jaroj muzikamantoj havis multe da diskoj.
2. Tiu, kiu laboras en oficejo, estas oficisto.
3. Fotisto fotis min.
4. Kelnero verŝis viskion en vinglason(または glason de vino)
5. En la botelo estas unu glaso da vino.

- B . 1 . 私に絹布を2メートル下さい。
- 2 . 私は卵を2ダース買いました。
- 3 . この山は3,383メートルの高さがあります。
- 4 . ヴェネツィアの海岸には大勢の人々が歩いていました。
- 5 . 木の上に鳥がたくさんとまっています。

中級 A. 「カエル、もちろんだよ。どこに……」と赤いドンちゃんが言い始めました。「カエルは混血さ」と、黒い眉毛をした小人のような顔つきをした少年は、歯の間から息をもらしながら言った。「殺してしまえ」「いいや」と、ヤーノは反抗した。「いいや、放してやれよ、エルチ。カエルはヤーノのものだよ。おだやかにしておいてやれよ」と赤いドンちゃんは固く言った。

B . Oni diras ke, krei ŝakon tiel kontribuas por la mondo kiel eltrovi zeron, ambaŭ per la manoj de Hindoj.

La civilizacio de la valo Indus estis pli antaŭe ol 2 mil jaroj antaŭ kristo. Kaj inter la restaĵoj de tiu civilizacio ni vidas dikajn kvadratajn tabulojn el briko, kun ludpecoj el ceramikaŭ aŭ el trezoraj ŝtonoj. Tiuĵ tabuloj kaj ludopecoj estis eltrovitaj el la arkaologiaj ruinoj: Moenjodaro, Harappa. (el "Mimpaku", 2006 Majo)

解説

初級A - 1)-antoは「しつづある人、している人」という意味です。Amantoは「愛している人、がすきな人」ということで、その前に muzik-o「音楽」がついていますので、*muzikamanto* は「音楽愛好家」になります。

A - 2, 3)-istoは「を職業にしている人、主義者、を信奉している人」という意味です。oficistoは「事務員」、fotistoは「写真家」(写真を撮ることを職業としている人)となります。単に「写真を撮っている人(銀行員の人が、そのときに、たまたま写真を撮っていれば、La fotanto, kiu estas bankisto, staras antaŭ ĉiuj por foti ilin.となります。Tiu, kiu laboras en oficejo, estas oficisto.はTiu estas oficisto.が、この文の基本的な部分となります。kiu laboras en oficejoは、その前にあるTiuを説明している文で、ここに挿入されています。

初級B - 1, 2)daは数量をあらわす前置詞です。glaso de vino「ワイングラス」にはウィスキーでも、水でも、ジュースでも入れることができます。glaso da vino「グラス一杯分のワイン」は、もちろんワイングラスに入っているときもありますが、瓶に入っていたり、コーヒーカップに入っているときもありません。B - 3)Tiu ĉi monto havas trimil tricent okdek tri metrojn da alto.を estas で書き直すと、Tiu ĉi monto estas trimil tricent okdek tri metrojn alta.またはTiu ĉi monto estas je trimil tricent okdek tri metroj alta.

中級A)Lasu ĝin trankvila.は、trankvilaであるように、それを放っておいてやる。Konfirmiはplicertigi la verecon, sendubecon de ioの意味。Certigiは「確かめる」だから、konfirmiは「より確かであると確認する」、「(意志を)固める」の意味。

通信添削問題

2007年1月号問題

初級 A. 次の文をエスペラントにきなさい。

1. 私の父は大きくもなく、小さくもなかった。
2. 彼はたいへん太っているので、私の家の玄関の狭いドアを通ることができない。
3. それは髪の毛ほどの細さである。
4. そこの空気はたいへん新鮮で、私たちは幸福に感じました。
5. 凍ったバナナは石のように固い。

B. 次の文を日本語にきなさい。

1. Malbonaj infanoj amas turmenti bestojn.
2. Rekta vojo estas pli mallonga, ol kurba.
3. La tablo staras malrekte, tenu ĝin, por ke ĝi ne renversiĝu.
4. Li staras supre sur la monto kaj rigardas malsupren sur la kampon.
5. Malamiko venis en nian landon.

中級 A. 次の文を日本語に訳きなさい。

Kol promenis antaŭe kun la aliaj knaboj, al kiuj li emis paroli gaele, ĉar kvankam li estis urbegano, tamen li restis en gaela etoso grandan parton el la jaro, kaj fieris pri sia lingvokono precipe antaŭ sia kuzo Jano. La aliaj knaboj volonte respondis lin per la por ili natura lingvo, sed Dol Rua interrompis ĉiun ekprovon per rilata diro anglalingva kompleze al la filistra Jano, kaj la aliaj fine akceptis la averton nediritan.

B. 次の文をエスペラントに訳きなさい。

横浜市は、日本の首都・東京の西南約30 kmに位置し、人口360万人の日本第2の都市です。市のGDPは12兆68億円（約1,122億米ドル）に上り、電機機械・輸送機械などの製造業、サービス業が主な産業です。日本の近代化の黎明期において、横浜は世界からのゲートウェイとして発展しました。今日においても横浜砦の貿易高は日本トップクラスです。

横浜市は積極的に海外から企業や国際会議を誘致しているほか、市民による草の根レベルの交流も促進しています。今日、横浜が姉妹都市提携を結んでいるのは8都市（サンディエゴ、リヨン、オデッサ、バンクーバー、ムンバイ、マニラ、上海、コンスタンツァ）また姉妹・友好・貿易協力港は6港（オークランド、バンクーバー、上海、メルボルン、大連、ハンブルグ）です。

(横浜市のホームページから)

宛先 〒621-8686 京都府亀岡市天恩郷
エスペラント普及会 誌上講座通信添削係
(返信用封筒に切手を貼ってお申込み下さい)



エスペラント入門

講師 坂本弓代

明けましておめでとうございます。

読者の皆さまには、良いお正月をお迎えのことと存じます。

さて、年の初めにあたり、何か新しいことをしたいと思っていられる方は多いことと思います。

そこで、私と一緒にエスペラントを学習されてみませんか。

はじめての単語

私	あなた	・・・です
Mi	Vi	estas
ミィ	ヴィ	エスタス



私 = はな

Mi = Hana

ミィ = ハナ

あなた = 太郎

Vi = Taro



ぼく = 太郎

Mi = Taro

ミィ = タロー

君 = はな

Vi = Hana

Mi は、わたくし、うち、俺など自分のことを表します。

Vi は、おまえ、あんたなど、相手のことを言います。

私とはな、ぼくと太郎はそれぞれ同一なので、それを結ぶには estas を使えば、より分かりやすい文となります。

私 は はな です。

Mi estas Hana.

ミィ エスタス ハナ。

あんた は 太郎 です。

Vi estas Taro.

ヴィ エスタス タロー

ぼく は 太郎 だ。

Mi estas Taro.

ミィ エスタス タロー

君 は はな だ。

Vi estas Hana.

ヴィ エスタス ハナ

では、ご自分の名前やそばにいる人の名前など、声に出して言ってみましょう。

Mi estas _____ .

Vi estas _____ .

ところで、「わが輩は猫である」は、どう表現したらよいのでしょうか？（つづく）

藤本達生のエスペラント界無差別級指南講座

(1)

まずは単語の話からー

はじめに:「界」とは、エスペラント語も含むが、-ujo全般にわたって話を進めるつもり、という意味である。無差別とは、入門、初級、中級、上級も、その上の無差別級も、順不同に出てくるはず、というくらいに思っていたいただければ、幸いである。

魚釣りは、フナに始まって、フナに終わる、という。エスペラントも、それに習って言えば、単語に始まって、単語に終わる、と言えようか。「単語さえ知っておれば、なんとかなる(つまり、文法的な間違いがあっても、話は通じる)」というのは、嘘ではない。しかし、な

るべく、文法も少しは知っていた方がいいだろう。そう思って、昨秋、文法の本も出した(「エスペラント語の入門書」天声社刊、¥1,500)。

では、どうすれば、単語を覚え、ちゃんと使えるようになるか。受け身、つまり、読んだり聞いたりして分かる単語と、逆に書いたり話したりができる単語

には、開きがある。前者が100だとすれば、後者はその3分の1くらいであろうか。たとえば、受け身で1,000語分かる人でも、使えるのは300~500くらいまではあるまいか。



Tacuo Higimoto

Tacuo Higimoto

藤本達生のエスペラント界無差別級指南講座

私の場合は、いずれも、何語分かるかは不明である。数えたこともないし、数え方も知らない。

50年余り前に覚え、その後、読書中に見たことも、自分で使ったこともない単語も、いっぱいある。それは、本で読んでいて知らない単語が出てきたとき、辞書を引いて覚えたのもあるが、直接、辞書(岡本好次編の『新撰エス和辞典』)を見て覚えた単語も、たくさんあるから。

分かりやすい例をあげると、最初に読んだ独習書(小野田幸雄著)『エスペラント四週間』(大学書林刊)にあったkanario(カナリア)である。カナリアのことを読んだり、話したりしたことがあるとは思えない。Monokotiledona(単子葉の)なども、まず、使うことはない。日本語でも、そんな話をしたことはない。

先にあげた岡本の辞書は、「一語一行主義」といって、訳語こそ「詳しくない」けれど、語数は、かなり多い。私の語彙の95%ぐらいは、この辞書で覚えたのではないかと思っている。

長いスパンで考えてみても、1953年の6月22日(学び始めた日)から、1959年5月、映画「ジャン・有馬の襲撃」(大映京都製作の時代劇)のイベリア語(実はエスペラント語)の指導にあたった時までの6年間で、私のエスペラントは、ほぼ完成していた。あとは、それまでの「利息で食っている」わけである。PIV等で「初めて知る単語」もあるが、それは、語数にすれば、タカが知れている。JEI発行の新しいエス和(エス・日)も、今のところ、パラパラとめくった程度である。



Tacuo Huĝimoto:<<Felietone Feritone>>

Feliĉan Novjaron mi deziras al vi!

2007 januare

En aŭgusto ĉi-jare okazos la 92a Universala Kongreso de Esperanto en Jokohamo. Tiam mi havos nenian rolon krom tio, ke mi denove kandidatiĝos por komitataneco C de UEA, la UK-organizanto.

Kelkaj bonvolis afable konsili al mi, ke mi ne okupiĝu per tia movada politiko; ke mi prefere dediĉu min al verkado. Mi kore dankas ilin por ilia komplezemo prizorgi min, kiu ŝajnus havi neniun politikan kompetentecon.

Mi tamen estas konvinkita, ke krom mi ekzistas apenaŭ personoj, kiuj scias politikon. Ĉi-kuntekste, mi devas tuj aldoni, ke politiko ne estas administracio fare de burokratoj. Se oni komparus la nun traktatan temon kun nia korpo, la politiko apartenas al kapo aŭ la cerbo; kaj la administracio — al la membroj.

Bedaŭrinde, oni vidas nur la membrojn, kiuj moviĝas, sed oni ne vidas, kion faras la cerbo.

Nu, koncerne min, foje s-ino Mikela Lipari, italino loĝanta en Romo kun sia japana edzo, s-ro Jasuo Sato, skribis al mi: la komitatkunsidoj (de UEA) estas aliaj, sen viaj pensigaj intervenoj. Kion tio signifas?

Mi scias ĝustatempe interveni, kiam oni diskutas en la komitatkunsidoj, kaj tion mi faras trafe. La komitato ekzistas por nia movada politiko, ĝi tamen ofte stagnas, eĉ ne povas praktike funkcii, ĉar mankas nia politiko kaj taŭgaj politikistoj.

あけましておめでとうございます。
2007年正月

今年の8月には、第92回世界エスぺラント大会が横浜で開催される。その際、私は自分が新規蒔き直して、UK主催者・UEAのC委員になるべく立候補する。しかし、そういうエスぺラント運動の政治にかまけるより、むしろ著作に打ち込んだ方がいいのではないか、という助言をくださった方もある。

私は、何の政治的力量も持たない者だと思われていそうな私のことを心配してくださる、この方がたのご親切に対しては心から感謝している。とはいうものの、私は、自分の他には政治の分かる人はほとんど存在していないと、確信している。この文脈ですぐに付け加えるべきことは、政治は官僚による行政ではない、ということである。

もし、今扱っているテーマを人に例えるとすれば、政治は頭すなわち大脳に、行政は手足に相当する。残念なことだが、人体には動く手足は見えるが、脳が何をしているかは見えない。

ところで、私のことだが、かつてミケラ・リパリ夫人(日本人の夫・佐藤康夫氏とローマに住んでいるイタリア女性)は、こう書いてきたことがある。「貴方の、考えさせる発言の聞かれなくなった、UEAの委員会は別のものです」。これは何を意味しているか。

委員会で議論している時、私はタイミングよく介入(発言)できるし、しかも的はずれない。委員会はエスぺラント運動の政治のために存在しているが、しばしば停滞し、政治的に機能することもできない。政策もなく、有能な政治家もいないからである。

EPA 支部活動報告

“ なにはづ ” に萌ゆる esperantistoj

~ Revu pri brila estonto ~

大阪本苑は昨年、全国の神の家の魁けとし造営されて、10周年を迎え教主さまのみ手によるコノハナザクラの若木がすくすくと成長している。エスペラント学習も同様に、大阪本苑やなにはづの家で、brila estonto に向けて活発に進められている。

[大阪本苑 kurso]

月 2 回 (水曜日)

午後 7 時、買い物か
ごを手にした婦人や
勤め帰りの男性、そ
してマイカー数台に
より、熱心な e-istoj
が “ Bonan vesperon ”
を合言葉に集う。講
座は田中雅道先生

(エスペラント普及会専務理事) の流暢な saluto で始まる。lernanto は 50 代 ~ 80 代とかなり老壮年化しているが、熱気は junulo たちに一歩も引けを取らない。毎回、25 人前後 (viro 5 対 virino 5) が参加。

テキストは “ INTENSIVA KURSO de ESPERANTO ” を終え、現在は藤本達生編『エスペラントはこう話す』を用いている。各章ごとに先生の懇切丁寧な指導で精読、文法・文体の解説、応用等を学び、そして最後に legado と進む。まさしく先生の gvido と lernanto が unuiĝi ひとつになる時である。lernanto のなかには、自称 EPA 1 級の veterano、2 級認定者、そして 3 ~ 4 級認定者とかなりハイレベルである。

なかにはエスペラントを学ぶことが「生き甲斐」という老婦人や、各国の世界エスペラント大会参加経験者としても知られる

geedozojなど多彩な顔ぶれである。また、神戸からの熱心な参加者も見られる。今夏、独の juna esperantisto との交流会も催ことができた。毎回、ptm.8:30 に、ĝis revido! と挨拶するまで、さわやかな会話が夜空に響く講習会である。

[なにはづの家 Kurso]

昭和39年、大本三代教主さまによって再興された「なには別院」が大本本部に吸収合併後、五代教主さまによって「なにはづの家」と命名された。それまで故・出口眞弓氏が熱心にエスペラント塾を主宰されていたが、昇天後、裕大福先生(EPA 常務理事)により毎月2回(火曜日) 中級の kurso が催されている。

lernanto は 10 人 (viro 5・virino5) fratinoj や geedzoj と多彩な顔が揃う。テキストは“LA OR- PANTARONO”。一人一人が antaŭ tablo で legado し、読む力、アクセント、聞く力を養う。なかに senlibro で暗唱 (parkero) する lernanto も見受けられる。その秘訣は、スーパーの買い物の途中で暗記するという、lerta virino の一面を見るのもまた楽しみのひとつ。そして裕先生の物腰柔らかな gvido の下、豊富なエスペラント体験談を聞くのも、この kurso の楽しみでもある。

さて、両 kurso とも先生方の卓越した指導力を存分にいただき、月ごとの語学力の成長具合が期待される。来年の横浜大会への参加、そしてまた“Bonvenon al Oomoto en 2007!”のエスペラント国際行事への熱い思いを胸に、未熟な interparolado に悪戦苦闘している昨今。学ぶことを決して堅苦しく義務化することなく、楽しく会話を学ぶ lernadoj の毎日である。でき得れば、来年は近隣の e-istoj と EPK 開催の夢もある。五代教主さまの sankta laboro に Ni marŝu antaŭen iom post iom!

世話係 (本苑) 石川イツ子、(なにはづの家) 宇佐美日出子
総責任者：谷垣孝幸

Zamenhofa Festo en 2006!



エスペラントの創始者・ザメンホフ博士の生誕 146 年を祝う恒例の「ザメンホフ祭」は、亀岡市天恩郷大本本部大本会館ホールを会場に 12 月 3 日午後 2 時から 5 時まで開催された。

当日は、第 52 回 EPA 理事・代議員・支部長会議出席者や、天恩郷月次祭後に参加した家族連れの本信信徒、梅松塾生など約 60 人が集った。

童話、エスペラント歌、朗読、寸劇などのプログラムの幕間には、第 9 1 回世界エスペラント大会や同 9 2 回大会について、モンゴルのエスペラント情報、EPA 支部活動報告などが行われた。

参加者は出口紅 EPA 名誉会長より頂戴したお菓子などを頂きながら、にぎやかな雰囲気の中、ザメンホフ博士の生誕を寿いだ。

第 52 回 EPA 理事・代議員・支部長合同会議報告

昨年 12 月 2 日午後 1 時半から 3 時半まで、亀岡市天恩郷大本第 3 安生館 1 階フロアで、第 52 回 EPA 理事・代議員・支部長合同会議が開催され、22 人が参加した。

会議では平成 18 年度のエスペラント活動報告、平成 19 年度予算案、同年活動計画案、第 92 回世界エスペラント大会大本分科会開催、大本エスペラント友の会の発展的解消について、日本エスペラント大会規約並びに同大会常置委員会規約、国際友好行事 Bonvenon al Oomoto en 2007! などについて協議された。

次いで、Oomoto Internacia 並びに EPA 地方支部活動、圓佛教青年部と大本青年部のエスペラント交流について報告が行われ、午後 3 時半に終了した。

EPA 事務局便り

その後、出席者は朝陽館に移動し、出口紅 EPA 名誉会長のご面会を賜り、来夏、両聖地で開催される Bonvenon al Oomoto en 2007! の国際行事の成功を誓った。

なお、夜間には第3安生館1階ホールを会場に、出席者の近況報告と交歓会を催した。

2007 年エスペラント普及会年間行事予定表

- ・越年エスペラント研修会
2006 年 12 月 30 日 ~ 2007 年 1 月 2 日
- ・第 17 回国際エスペラント合宿 (韓国慶尚北道清道市)
3 月 24 ~ 25 日 恒例の「春季エスペラント研修会」(天恩郷)は、上記合宿参加のため今年は開催致しません。
- ・第 53 回エスペラント普及会理事会(天恩郷)
4 月 14 日
- ・第 92 回世界エスペラント大会参加 (横浜)
8 月 4 日 ~ 11 日
- ・上記大会にて「大本分科会」の開催を予定
8 月 5 日午後 2 時 ~ 5 時
- ・Bonvenon al Oomoto en 2007! (梅松苑)
8 月 11 日夜 ~ 14 日正午
- ・第 54 回エスペラント普及会理事会 (天恩郷)
12 月 1 日
- ・ザメンホフ祭 (天恩郷)
12 月 2 日
- ・越年エスペラント研修会 (天恩郷)
12 月 30 日 ~ 2008 年 1 月 2 日

訂正とお詫び

本誌 12 月号 7 ページ上から 3 行目の “Ĝrandan Originon” は、Grandan に、10 行目の fliaj naj baroj は ŝiaj に。13 ページ見出しの Atendaj de viaj kuraĝigaj... は atendataj viaj に。

Raporto pri la 38-a Korea Kongreso de Esperanto

Kim Uson (kimuson@unitel.co.kr)

En la 14a-15a de oktobro, la 38a Korea Kongreso de Esperanto okazis en la Centro por Evoluigo de Homa Rimedo de POSCO(Pohang ŝtal-kompanio) en la bela havenurbo Pohang, sudoriente de Korea duoninsulo. Al la kongreso aliĝis 131 personoj, inkluzive 19 alilandanojn el Ĉinio, Japanio kaj Tailando. La kongresa temo estis "La Rolo de Esperanto por Kontribui al Regiona Komunumo".

Estis fakaj kunsidoj: Korea sekcio de ILEI, SAT-anoj, Espera Monto, Katolikismo, Kristanismo, Uombulismo, Rondo-ktp kaj tiel plu.

En kongresa universitato prelegis d-ro KAWANISHI Tetsurou el Japanio pri la "Sano kaj korpa movo en referenco al Taegukkwon laŭ esploranazilo de kuracisto pri rehabilitado" kaj prof. So Jin-su sub la titolo "Rokarto de primitivuloj en Altajo de Mongolio".

Kadre de la kongreso okazis simpozio pri la Wha-chong(vicprezidanto de KEA) pri "Medicina servado al socio per Esperanto en Kyeongbuk-filio", pastoro HA Gwang-rak pri "Lingva servado por la nekoraj laboristoj" kaj s-ro HO Song(KEA-estrarano pri eksteraj aferoj) sub la titolo "Kiel koreaj Esperantistoj kulture ŝanĝu kun edziniĝintaj enmigrintoj kaj enmigrintaj nekoreaj laboristoj?".

Oni prelegis kaj diskutis en la simpozio: "Pro la rapide malvastiĝanta terglobo multaj homoj transloĝiĝas en fremdaj landoj kaj ofte suferas pro lingvaj muroj.

Nuntempe en Koreio troviĝas multaj nekoreaj laboristoj kaj edziniĝintaj enmigrintoj. Ili suferas kaj fojfoje malprofitas pro malfacileco de komunikado. Do, kiameniere ni, esperantistoj povas helpi la malfortulojn per Esperanto. Kaj kiel ni povas disvastigi nian lingvon al tiuj, kiuj urĝe bezonas komunikiĝi kun fremdlingvanoj".

Kaj oni konkludis, ke unue sciigu la enmigrintojn pri Esperanto-komunumo, kiel pri ilia amikaro, per medicina servo kaj ceteraj. Per tio multaj el ili interesiĝos pri Esperanto aŭ favoros al ĝi, ĉar plejparto de ili ne tuj povas sukcese lerni Esperanton pro la manko de tempo.

La kongreso estas tre sukcesa. Multaj kongresanoj laŭdis la LKK-n, precipe pro la bela kongresejo. Kaj abundaj artaj programeroj kaj tre bongustaj manĝaĵoj en la interkona vespero.